

別紙 1

選定方法を非公募とした理由

札幌市青少年科学館（以下「科学館」という。）は、小中学生を中心とした幅広い世代の市民に科学及び科学技術に関する知識を分かりやすく伝えるため、サイエンスショーなどの実験展示、特別展など、時代に合わせ工夫した事業を実施している。

これらの事業を継続的かつ安定的に実施するためには、長期的な視野を持った高度な専門知識を持つ人材育成が不可欠であるとともに、事業の企画・立案等のノウハウの蓄積が必要である。

現在の科学館の指定管理者は、公益財団法人札幌市生涯学習振興財団（以下「生涯学習振興財団」という。）であり、継続的な事業運営に向けた人材育成を行うとともに、ノウハウを生かし市民のニーズを捉えた事業を実施しており、これまで良好な管理運営等が行われている。

また、本市が求める学校教育との連携や生涯学習の推進といった事業展開を効果的・効率的に行うに当たっては、本市と指定管理者が一体となって事業等に取り組む必要があるため、指定管理者への継続的・積極的な関与が必要である。

科学館は、小・中学校の理科の学習に継続して活用されており、学校教育との連携は特に重要である。そのため、科学館における事業運営を本市と一体的に取り組むことができるのは本市の出資団体であり、現在の科学館の指定管理者である生涯学習振興財団の他になく、非公募として、生涯学習振興財団に指定管理者の申込みを求めたものである。

札幌市天文台（以下「天文台」という。）は、青少年及び一般市民の天文科学に関する知識の普及啓発を行うとともに、天文学上の観測及びその記録の収集を行うことを目的とした施設である。

科学館においても、プラネタリウムのほか、数多くの天文事業を実施しており、科学館及び天文台は、市民の天文分野に対する関心に応えるという役割を共通して担っているから、施設の効率的な運営の面からも一括で運営していくことが適当であるため、科学館の指定管理者を非公募とすることに併せ、天文台の指定管理者についても非公募として、生涯学習振興財団に指定管理者の申込みを求めたものである。

別紙 2

札幌市青少年科学館及び札幌市天文台の指定管理者の選定結果について

1 選定委員会開催経過

第1回 令和4年7月1日 募集要項、選定方法等について

第2回 令和4年10月5日 書類審査、面接審査、選定

2 選定委員会委員

委員6名（市職員1人、外部委員5人）

委員長 鈴木 克典 北星学園大学教授

委員 井上 大樹 札幌学院大学准教授

委員 倉知 直美 公認会計士

委員 舟根 大 社会保険労務士

委員 古川 勉 札幌市立西宮の沢小学校校長

委員 村上 玄光 教育委員会生涯学習推進課長

3 応募団体

団体名

公益財団法人札幌市生涯学習振興財団（※現指定管理者）

非公募により応募を求めた理由：別紙1のとおり

4 選定結果（指定管理者候補者）

(1) 選定された団体

公益財団法人札幌市生涯学習振興財団 理事長 長谷川 雅英

札幌市西区宮の沢1条1丁目1番10号

(2) 選定の理由

公益財団法人札幌市生涯学習振興財団（以下「生涯学習振興財団」という。）は、平成18年度から札幌市青少年科学館（以下「科学館」という。）及び札幌市天文台（以下「天文台」という。）の指定管理者として良好な管理運営を行っている。

生涯学習振興財団の提案内容は、科学館及び天文台の管理運営業務の各要求水準を満たしており、科学館の選定基準である施設の効用発揮の点では、新しく「キャッシュレス決済」を導入することで利用者へのサービス向上を図る提案となっている。また、生涯学習振興財団の安定経営能力の点では、財務状況が健全であり、職員の人材育成・研修計画においても適切な提案となっている。

さらに、科学教育の普及啓発や学校教育との連携の点においては、これまでの事業に加え、高校生以上を対象に普段生活している中で何気なく利用している物や現象に注目し、大人の知的好奇心を満足させるような科学教室を新たに計画するなど、幅広い世代の学習ニーズや利用ニーズに合わせた提案がなされている。

以上の点から、科学館及び天文台の設置目的を効果的に達成するために、生涯学習振興財団は指定管理者の候補として適切であると判断された。

なお、選定委員会において、科学館のリニューアルを機に、今まで以上に市内の企業や大学等と連携をして、最新の科学技術等を子どもたちに伝えとともに、これまでも力を入れている雪や氷など札幌らしい科学館の要素について、一層工夫した取組みを期待する旨の意見があった。

(3) 評価結果

選定基準	基礎配点	候補者
①平等利用の確保	30 点	24 点
②施設の効用発揮	360 点	286 点
③安定経営能力	270 点	209.12 点
④管理経費の縮減	90 点	66 点
⑤科学教育の普及啓発	150 点	126 点
⑥学校教育との連携	180 点	150 点
⑦その他	120 点	102 点
合計	1,200 点	963.12 点
得点率	—	80.3%